



にこにこ通信第197号

2010/8/20

〒933-0804 高岡市問屋町 40 (有) 沖商店

沖 昌弘

TEL 0766-25-2525(にっこりにこにこ)

E-mail

FAX 0766-26-5500(ふるへごーごー)

oki2525@oki-shouten.com

謹啓 毎度格別のご最頁に預り厚くお礼申し上げます。

本通信は、皆様のご意見を頂いて私の人生修行の糧といたしたたく、ひと月に一度お届けしています。どうぞ、忌憚の無いご意見をお寄せください。よろしくお願いいたします。

一 義援金募集について

この度の東日本大震災に対し、私がお会長の務めさせて頂いている自治会の老人会にも義援金募集の要請が来しました。それに対して「会として適当な額をまとめて出そう」と言う意見もありましたが、私は本通信、第193号でも申し上げました通り、この種の募金は、人各々に与えられた試練だと思えますので、会でもまとめて出すのではなく、全員に知らせ、金額の大小にかかわらず、各自の意思の下で集まるだけを自分等の心として協力すべきだと、「お願い文」を配布しました。その中より抜粋して以下に記しました。

前略『この様な義援金要請に対して、人はそれぞれに種々な考え方と対応をします。相合扶助の精神に従い何の關係もないのに義務のように協力する人。世間体・体裁を重んじ嫌々でも協力する人。心から同情して協力する人。

冷徹に協力を拒む人。私は、この中のどちらも間違っではないかと思えます。人はそれぞれに生まれ持った素質、育った環境によって、様々な考え方を持っています。

その日その日の暮らしに目一杯の人生に、他人のための義援金を求めるのはいけません。我利我利盲者の守銭奴に寄附や布施を求めても叶いません。

佛教では「人は皆仏に成れる」と説

いています。難しい理屈は機会があれば後ほど詳しく述べるとして、その修行のひとつに「布施行」と言うのがあります。「布施行」はものに執着しない

心・精神を育てることを目的としています。その方法は色々ありますが、一番簡単なのは「他人にものをあげる」と言うことです。ものは金銭で換算されませんが、心中で惜しみながらあげても修行になりません。今回の義援金の例で言えば、一円ならほとんどの人が惜しむ心無く協力できるでしょう。それが十円ならどうでしょうか。百円なら、千円なら、一万円なら、くくく。

この様に、自分の心に照らして無理のない程度で行うのが正しい「布施行」です。また、「与えてやっている」と言う心で行ってはいけません。「自分の心の出来上がり具合を計らせて貰っている」と言う考えで、喜んで行わなければなりません。喜んで捨てるは喜捨。人にも依りますが、私などは今まで十ヶ所以上から今回の大震災への義援金要請を受けましたし、今後もまだあるでしょう。その毎に前述の思いになつて協力して行きたい、否、させて頂きたいと思っています。人にはそれぞれ

の考えがありますから、こんな私の考えを押し付けようとは思いませんが、少しは興味を持って頂いて、自分の修行を深められては如何でしょうか。

というわけで、今回は高岡市老人クラブ連合会と守山老人クラブ連合会を通じて要請のあったことを、お知らせするとともに、自分の心の状態を計るひとつの機会ととらえ、嫌々味や惜しさを感ぜない程度で協力ください。すようお願いします』後略。

この結果、最初、会でもまとめて2万3万円ぐらい協力しようと思つていましたが、6万4千円も集まりました。皆さんの善意に深く感謝するとともに、今後もあるであろう募金集めには必ず応じて行かねばならないと思つています(惜しい心の起こらない程度で)。